

5 避難期間中の住まい

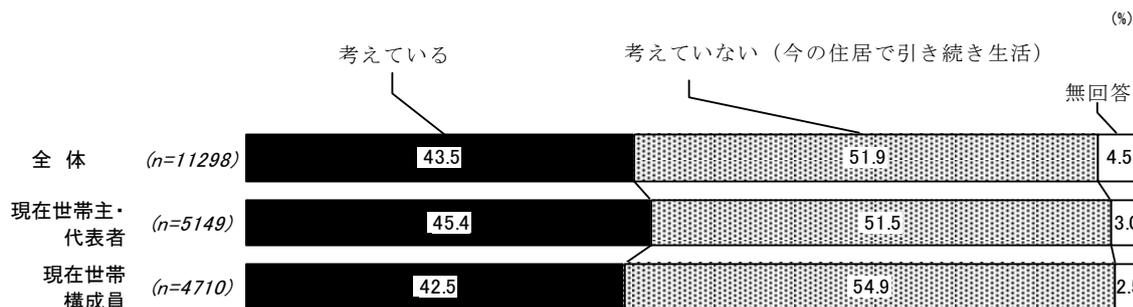
(1) 現在の住居からの転居予定

問 7-1 これからの避難期間中の生活において、居住を希望する住宅について教えてください。浪江町に帰町するまで、もしくは新たな生活拠点を見出すまでの間に、現在の住居から転居することを考えていますか。(〇は1つ)

これからの避難期間中の生活において、現在の住居から転居する事を「考えている」という回答者は 43.5%で、過半数は「考えていない(今の住居で引き続き生活)」(51.9%)と回答している。(図表 5-1-1)

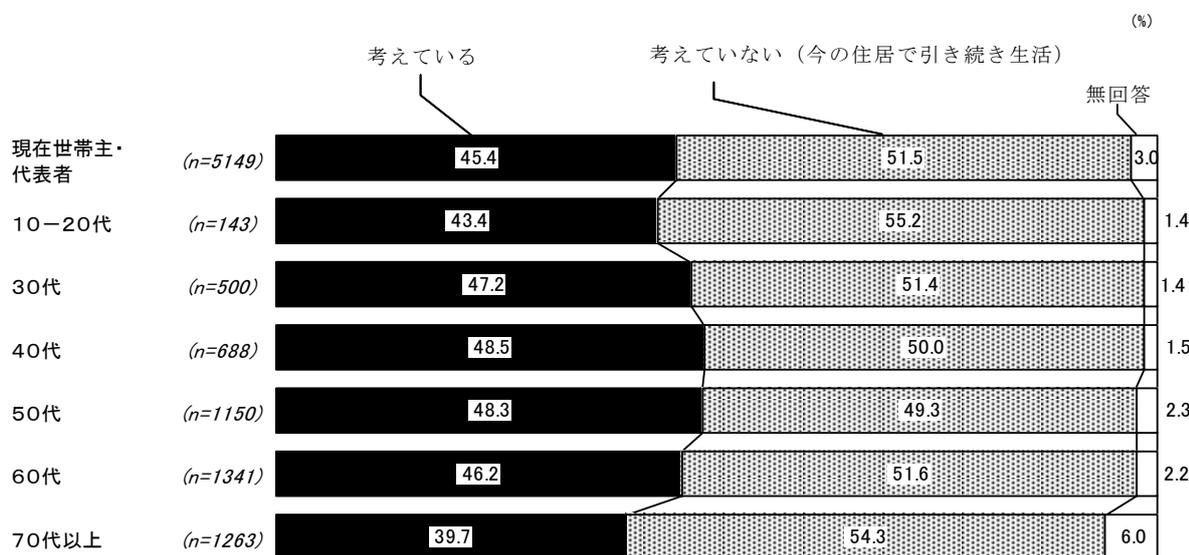
現在の世帯での立場別に見ても、大きな差はみられない。(図表 5-1-1)

図表 5-1-1 現在の住居からの転居予定(現在の世帯での立場別)



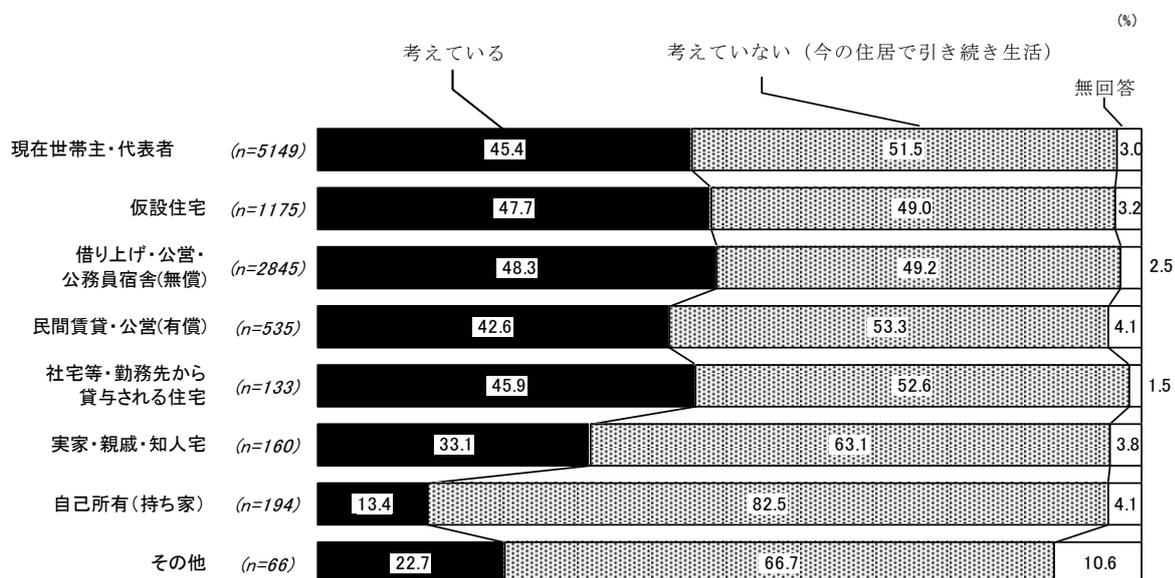
世帯主もしくは世帯の代表者の年代別に見ると、「考えている」と回答した転居意向のある世帯は、世帯主・代表者が 30～60 代の世帯で多くなっている。(図表 5-1-2)

図表 5-1-2 現在の住居からの転居予定(世帯主・代表者の年代別)



世帯主もしくは世帯の代表者の現在の住居形態別に見ると、仮設住宅もしくは無償の借り上げ・公営・公務員宿舎に居住している世帯では、転居を「考えている」という世帯が半数近い。これに対して、自己所有の持ち家もしくは実家・親戚・知人宅に居住する世帯の転居意向は低く、特に自己所有(持ち家)居住世帯では1割台となっている。(図表5-1-3)

図表 5-1-3 現在の住居からの転居予定(世帯主・代表者の現在の住居形態別)



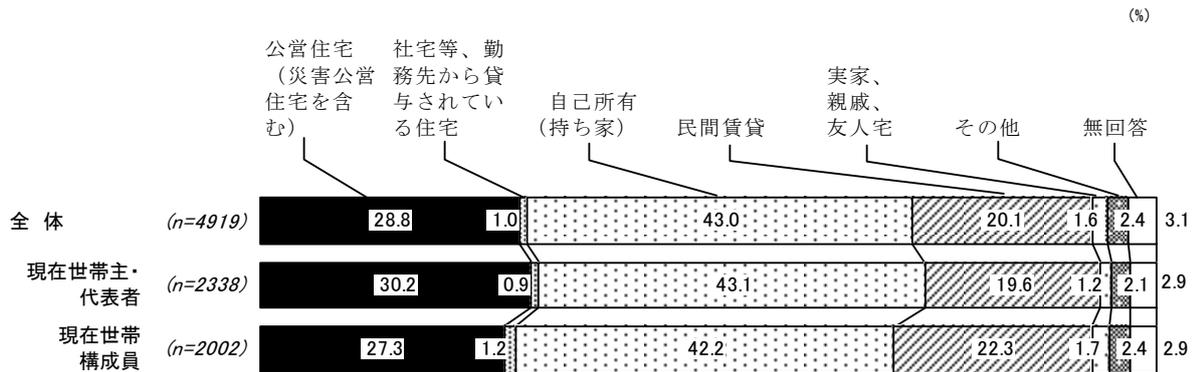
(2) 避難期間中に希望する住居形態

【問 7-1 で「1 考えている」と回答した方にうかがいます。】
 問 7-2 希望する住居の所有形態、住宅の建て方を教えてください。
 (1)所有形態(○は1つ)
 (2)住宅の建て方(○は1つ)

これからの避難期間中に現在の住居からの転居を予定している人(4,919 人)が希望する住居形態としては、「自己所有(持ち家)」という回答が 43.0%で最も多く、次いで「公営住宅(災害公営住宅を含む)」(28.8%)、「民間賃貸」(20.1%)の順となっている。(図表 5-2-1)

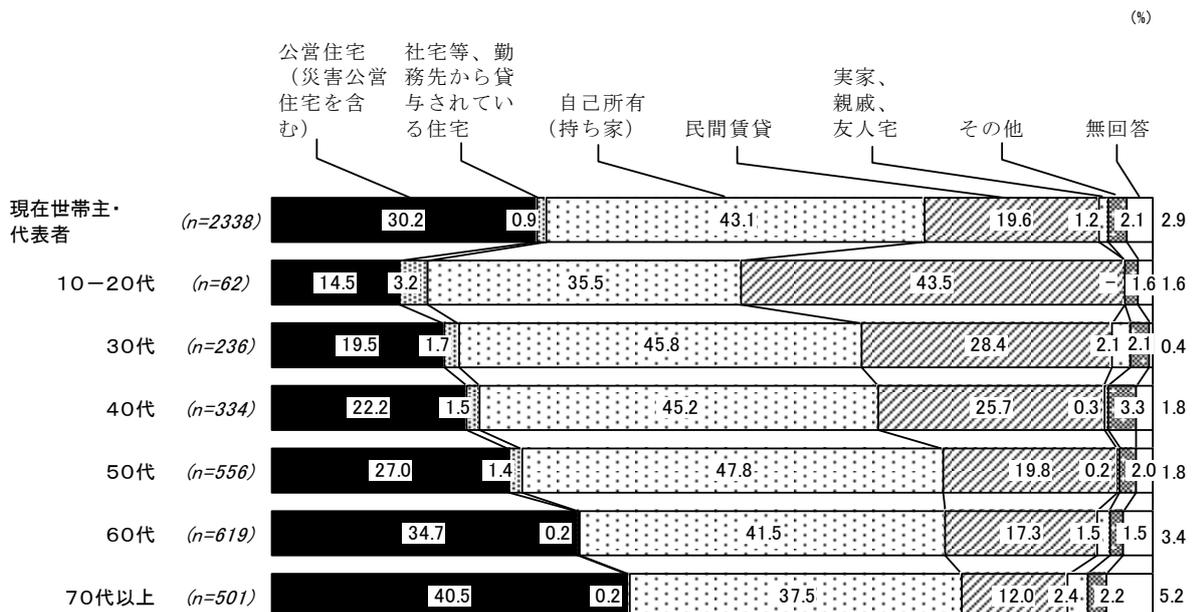
現在の世帯での立場別に見ても、大きな差はみられない。(図表 5-2-1)

図表 5-2-1 避難期間中に希望する避難住居形態(現在の世帯での立場別)



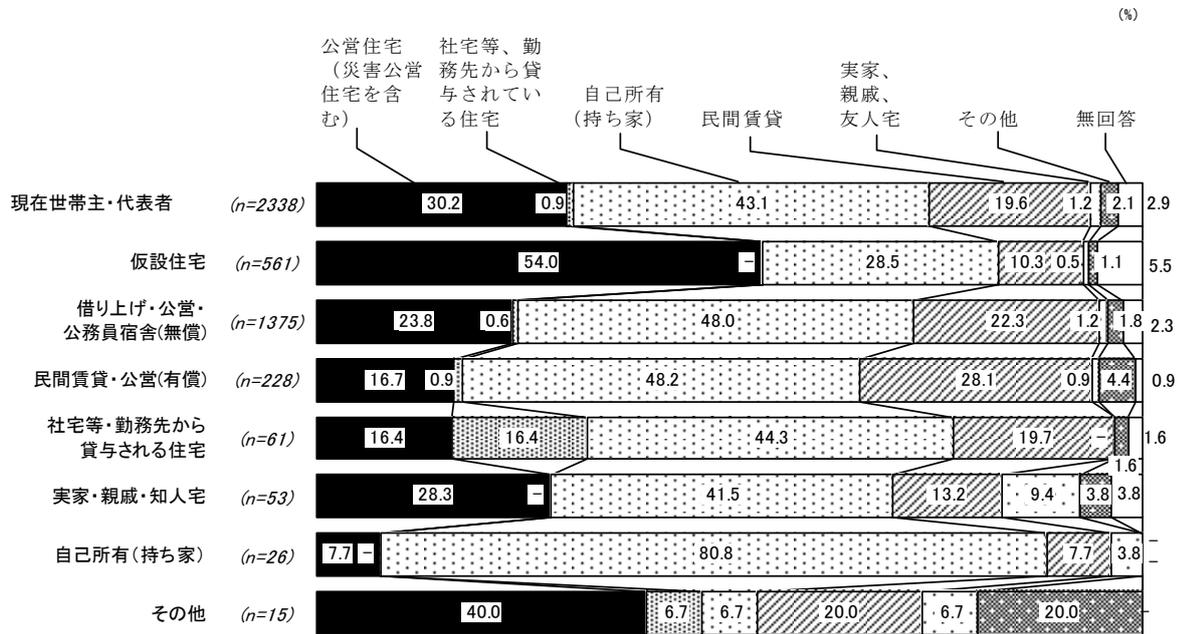
世帯主もしくは世帯の代表者の年代別に見ると、「公営住宅(災害公営住宅を含む)」は高齢層の世帯主・代表者ほど、「民間賃貸」は若年齢層の世帯主・代表者ほど要望が強くなっており、それぞれ世帯主・代表者が 70 代以上と 10~20 代で、「自己所有(持ち家)」への要望を上回っている。「自己所有(持ち家)」は、世帯主・代表者が 30~50 代の世帯で、より強く要望されている。(図表 5-2-2)

図表 5-2-2 避難期間中に希望する避難住居形態(世帯主・代表者の年代別)



世帯主もしくは世帯の代表者の現在の住居形態別に見ると、現在仮設住宅に入居している世帯の過半数は、避難期間中は「公営住宅(災害公営住宅を含む)」(54.0%)への入居を希望している。それ以外の住居形態に居住する世帯ではいずれも、「自己所有(持ち家)」への要望が最も強く、特に無償の借り上げ・公営・公務員宿舎入居世帯(48.0%)と有償の民間賃貸・公営住宅入居世帯(48.2%)で要望が強い。(図表 5-2-3)

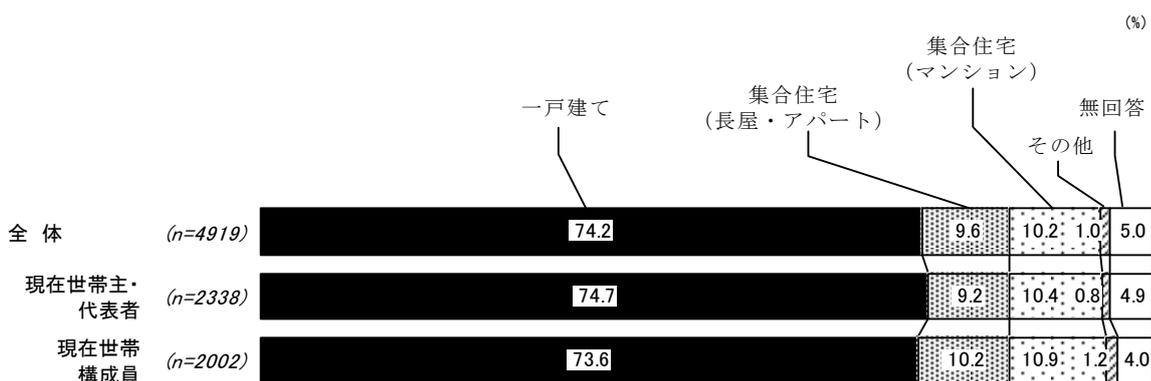
図表 5-2-3 避難期間中に希望する避難住居形態(世帯主・代表者の現在の住居形態別)



希望する住宅の建て方としては、「一戸建て」という回答者が74.2%を占めている。3階建て以上の「集合住宅(マンション)」(10.2%)もしくは、2階建て以下の「集合住宅(長屋、アパート)」と回答した『集合住宅』を希望する人はほぼ2割である。(図表 5-2-4)

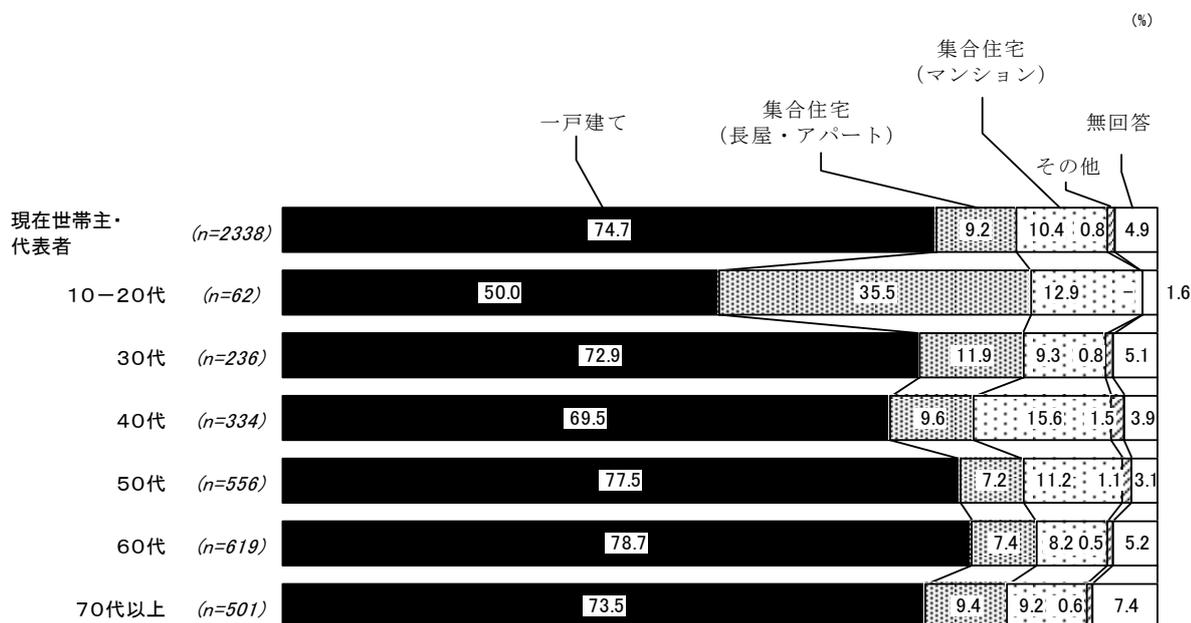
現在の世帯での立場別に見ても、差はみられない。(図表 5-2-4)

図表 5-2-4 希望する住宅の建て方(現在の世帯での立場別)



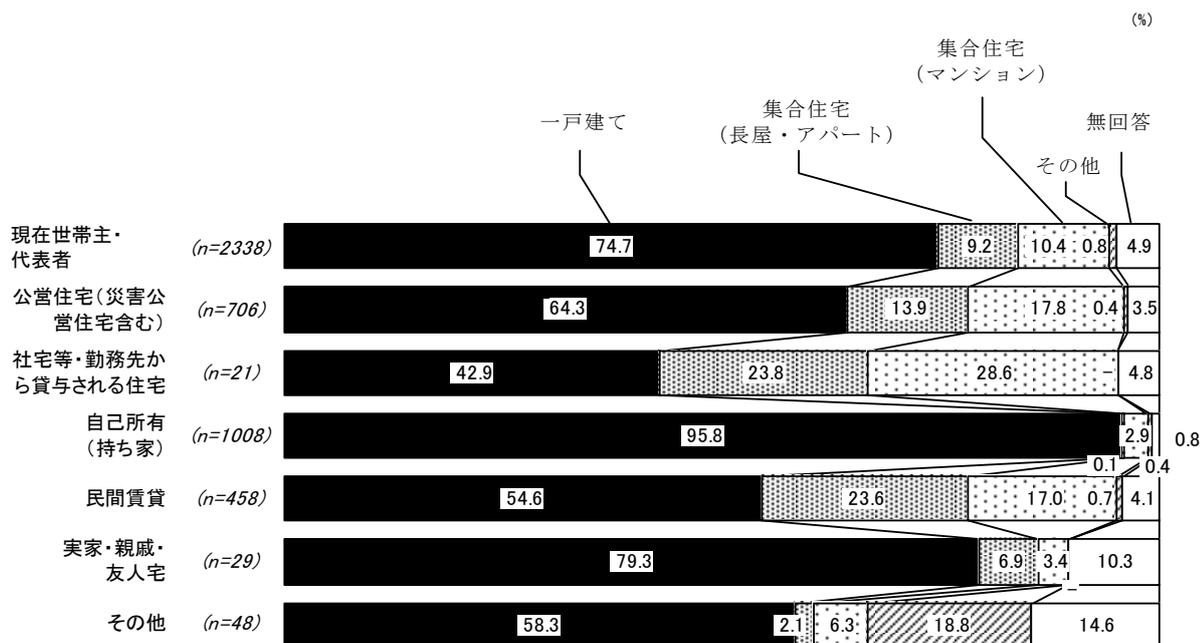
世帯主・代表者の年代別に見ると、いずれの層でも「一戸建て」を希望する人が多数を占め、特に世帯主・代表者が50～60代の世帯では8割近くになっている。一方、該当数は少ないが世帯主・代表者が10～20代の世帯では「集合住宅(長屋、アパート)」を希望する世帯が35.5%と、他の年代より多くなっている。(図表5-2-5)

図表 5-2-5 希望する住宅の建て方(世帯主・代表者の年代別)



世帯主もしくは世帯の代表者が希望する住居の所有形態別に見ると、いずれの所有形態でも「一戸建て」を要望する世帯が最も多くなっているが、民間賃貸希望世帯では2階建て以下の「集合住宅(長屋、アパート)」希望世帯が23.6%と、他の所有形態希望世帯より多くなっている。(図表5-2-6)

図表 5-2-6 希望する住宅の建て方(希望する住居の所有形態別)



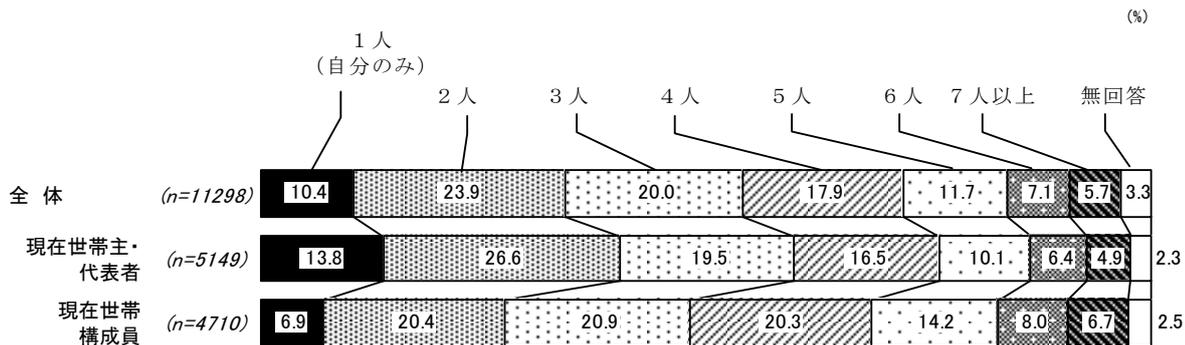
(3) 同居予定の世帯家族人数

問8 あなたが、今後一緒に住む予定の世帯家族人数は何人ですか。あなたご自身を含めた人数でお答えください。(○は1つ)

今後一緒に住む予定の世帯家族人数を聞いたところ、「2人」(23.9%)、「3人」(20.0%)、「4人」(17.9%)などが2割前後となっている。(図表 5-3-1)

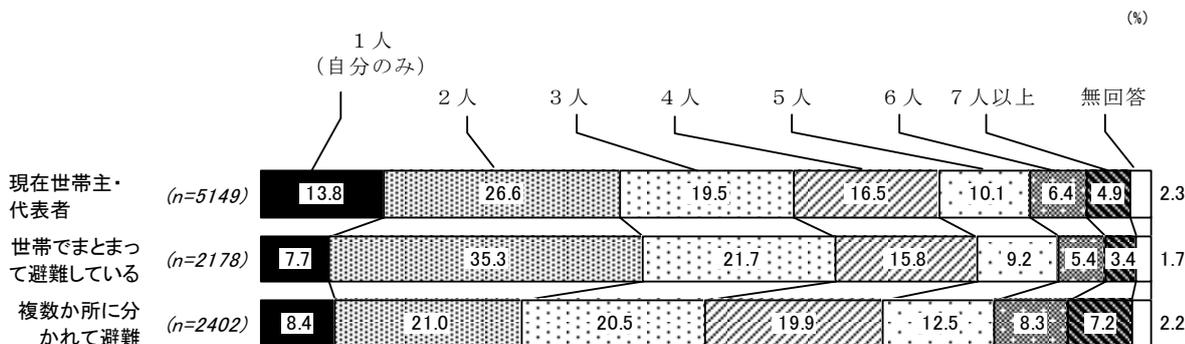
現在の世帯での立場別に見ると、「2人」(世帯主 26.6%、構成員 20.4%)という回答者は、世帯構成員より世帯主・代表者に多くなっている。一方、「4人」(同16.5%、20.3%)、「5人」(同10.1%、14.2%)などは、世帯主・代表者より世帯構成員の方が、同居予定人数が多くなっている。(図表 5-3-1)

図表 5-3-1 同居予定の世帯家族人数(現在の世帯での立場別)



世帯の避難状況別に見ると、まとまって避難している世帯では「2人」が35.3%と多くなっているが、分散世帯では「2人」から「4人」までがそれぞれほぼ2割で、同居予定の世帯家族人数が多様である。(図表 5-3-2)

図表 5-3-2 同居予定の世帯家族人数(世帯の避難状況別)



世帯主もしくは世帯の代表者の年代別に見ると、世帯主が10～20代の世帯では「1人(自分のみ)」が32.2%となっている。同居予定「2人」という世帯は、世帯主・代表者が高齢層ほど多くなっている。(図表5-3-3)

図表 5-3-3 同居予定の世帯家族人数(世帯主・代表者の年代別)

